

フッ化物応用によって推進する個人と地域の歯科口腔保健

神奈川歯科大学大学院口腔衛生学講座 教授 荒川 浩久

<抄録>

健康な歯をできるだけ長く保ち活発な咀嚼を続けることが、全身の健康保持に良い影響を与えることが解明されるにつれ、永久歯の主要喪失原因であるう蝕と歯周病予防の大切さが見直されている。

フッ化物応用はう蝕の予防とコントロールに有用であり、個々の患者と地域（学校などを含める）に適した応用手段があり、それらを組み合わせて提供していくことは、かかりつけ歯科医院あるいは公衆衛生関係者としての努めである。世界的には、全身応用（水道水フッロリデーションなど）とフッ化物配合歯磨剤の組み合わせが一般的であり、う蝕リスクに応じてフッ化物洗口やフッ化物歯面塗布も追加されている。わが国では、局所応用が少しずつ普及しているもののフッ化物洗口の普及は極端に低い。

今回は、わが国でのフッ化物応用のうち、オフィスユース（歯科専門家による診療室での応用）、ホームユース（家庭での応用）、パブリックユース（地域の集団での応用）の具体的な術式をまじえて解説し体験実習（フッ化物洗口 250ppmF と 900ppmF、フッ化物液磨き）も行う。

今やフッ化物応用は、子どもたちだけのものではなく、隣接面や歯根部のう蝕発生リスクの高い成人や高齢者まで、生涯を通じた使用が望まれている。また、フッ化物応用によるう蝕予防メカニズムの解明にともない、新しい指導方法も考案されている。今回はそれらについても紹介するので活かしていただきたい。

<略歴>

1977年 神奈川歯科大学卒業

2000年 神奈川歯科大学口腔衛生学教授

2009年 厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」主任研究者

2012年 ISO/TC106WG3・4 日本エキスパート

<最近の主要著書>

- ・歯科衛生士別冊. 3つのキーワードで読む予防歯科（診療室で行うフッ化物の局所応用の章を担当）クインテッセンス出版(株) 2002年
- ・ガイドブック 21世紀の歯科医師と歯科衛生士のためのフッ化物臨床応用のサイエンス（第4章のフッ化物配合歯磨剤、第5章のフッ化物配合歯面清掃剤、フッ化物バーニッシュ、第7章のう蝕リスクとフッ化物応用を担当）、永末書店 2002年
- ・う蝕予防のためのフッ化物洗口実施マニュアル 社会保険研究所 2003年
- ・予防歯科実践ハンドブック（学齢期の口腔ケアを担当）医歯薬出版株式会社 2004年
- ・う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤マニュアル 社会保険研究所 2006年
- ・季刊歯科医療. フッ化物を応用した新しい予防歯科システム 第一歯科出版 2007年夏号
- ・う蝕予防のためのフッ化物歯面塗布実施マニュアル 社会保険研究所 2007年
- ・フッ化物応用の科学（財）口腔保健協会 2010年
- ・う蝕予防のためのミルクフッロリデーション, 訳書, 口腔保健協会, 東京, 2011.
- ・フッ化物応用の安全性 ①急性毒性 歯界展望 2012年
- ・ライフステージに応じたフッ化物応用 DMR 2013年
- ・ヒスケアを考える デンタルエコー 2014年